

TOPの決断



医療法人偕行会
理事長(偕行会グループ副会長)

山田哲也氏

YAMADA Tetsuya

2022年6月

反対があっても、信念を持って
理解を得る努力をする。そうすれば、
正しかったと後から分かってもらえる。

写真／高田ますみ(P3、P5下)

1979年(昭和54)、名古屋市の小さな透析病院から出発した医療法人偕行会。それから45年余りで1都6県・40施設を展開する規模にまで成長し、透析医療グループとして国内第3位の実績を誇る。「Daily Innovation」(=日々、変革)を指針に掲げ、最先端医療や高齢者医療といった事業を拡大させながら、広い地域の医療を支え続けている。

聞き手／りそな総合研究所代表取締役社長 甲賀一隆

透析医療では国内有数の規模だとおうかがいしました。

山田 そうですね。現在、偕行会グループ全体で約3350人の患者さんを診ています。

これは全国の透析患者の1%にあたり、国内第3位の規模です。1位は約1万人、2位も9000人規模なので差はありますが、医療の質ではわれわれの方が優れていると自負しています。

院内の随所に、元プロ野球中日ドラゴンズの山本昌さんのパネルやポスターがありますね。

山田 グループの健康PRアンバサダーを務めていただいています。私たちは「いい医療」を提供していることには自信があるのですが、知名度がいまひとつなのが課題だと考え、もともとつながりがあった山本さんにお力添えいただくことになりました。



2025年4月に行われた元プロ野球中日ドラゴンズ・山本昌さんの健康PRアンバサダー就任式。グループの運営施設を訪問したり、SNSを含めた情報発信に協力したりしている

「透析はど
こも同じ」
と思われが
ちななので、
最近は情報
発信にも力
を入れてい
ます。

国内3位の規模に導いた日々の前進は日本の医療を変革するという一人の強い信念から端を発した

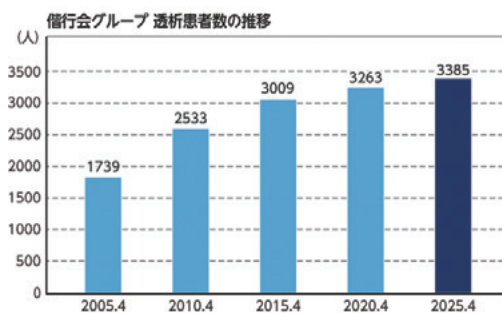
——これまでの歩みを教えてください。

山田 透析は1967年に保険適用されたのですが、当初は急性腎不全の診療点数がそのまま適用されたので、今より点数が高かったんです。だから「透析患者を20人も集めれば御殿が建つ」と言われていた。しかもまだ黎明期だったので、器具は市販品がなく、医師が手作業で作っていたらしいです。そんな状況だったので、透析患者の方は一般病院では合併症の症状を訴えても門前払いされるような時代でした。

そんな環境を改善したいと、腎臓内科の勤務医だったグループ会長の川原弘久が1979年に名古屋共立病院を開設しました。こ



開院当初（下）と、現在の名古屋共立病院。45年以上にわたって名古屋市の地域医療を支えてきた



偕行会グループにおける透析患者数の推移。2021年以降、全国的に減少傾向にあるが、グループでは全国の1%の患者を診ている

再投資して、院内に循環器内科・心臓血管外科・整形外科などを設け、合併症に対応できる体制を整えました。ここが川原の素晴らしいところだと思います。

——会長の強い信念を感じますね。

山田 私自身、日本の医療を変革するという川原のエネルギーに引かれたことが入職した理由の一つです。その後、1982年に医療法人化し、リハビリテーション病院や介護福祉施設も開設。現在では1都6県で40施設を運営し、グループとして切れ目のない総合的な医療を提供しています。

——お名刺等に書かれている「Daily Innovation」をまさに実践されている。

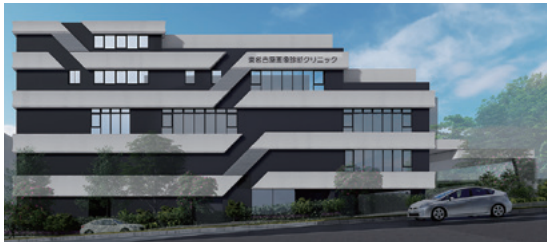
山田 グループの行動基準にもなってい

る、川原の言葉です。病院も時代に合わせて変革しないと、生き残っていけません。

最新の機器と積み重ねた実績を基に 地域医療を支え続けていくための 新築移転開院という挑戦

—— リニューアルされる施設があるそつですね。

山田 東名古屋画像診断クリニックを新築移転して10月に開院する予定です。隣接する愛知県がんセンターの建て替えに伴う移転なのですが、立地もよく、これまで培った地元開業医さんとの関係を維持しながら、移転先近くの大病院ともより強固な連携ができるほか、延べ床面積が従来の1.5倍になるため、患者さんにはこれまで以上に快適な空間を提供できます。



2026年10月にリニューアルオープンを予定している東名古屋画像診断クリニックのイメージ

—— 具体的にはどのような変化があるのでしょうか。

山田 最新鋭の機器を導入します。私たちは2004年、がん細胞を画像化する機器と体の構造を映す機器を一体化させた画像診断装置「PET-CT」を国内で初め

て臨床稼働させました。全身のがんの有無や位置、転移・再発を一度に確認でき、早期発見や悪性度の判定に有効な装置です。これをリニューアルすることで、より高精度な診断を実現します。

また、高精度な診断を実現するには、ただ最新の機器があればいいというわけではありません。それを操作し、撮影する診療放射線技師の経験、実際に画像をチェックし、診断をする医師の知見が最も重要です。PET-CTに関して、われわれは21万件を超える症例数を積み重ねてきました。この圧倒的な症例数を礎とした上で、さらに東名古屋画像診断クリニックでは2人体制で画像診断を行います。いわゆるダブルチェックです。この体制のおかげで、東名古屋画像診断クリニックの会員制健康診断では、早期発見が難しい臓器がんをごく初期に見つけて治療した方も複数いらっしゃいます。

また、これまで行ってきた悪性腫瘍や早期アルツハイマー型認知症に対するPET-CT検査に加え、狭心症や心筋梗塞、心筋症の有無などを診断できる「心臓アンモニアロ」検査も新たに行います。会員制健康診断では広い敷地を活かして、ラグジュアリーな空間で受診いただくのと同時に、これまでよりアフターフォローを充実させるなど、さらにブラッシュアップした健康診断サービスをご提供します。



りそな総合研究所
代表取締役社長 甲賀一隆

—— これまでの実績に裏打ちされた、たしかに挑戦というわけですね。

山田 そうですね。

先が見えない混迷する時代だからこそ 医療グループも事業を多角化し 危機を事前に回避する仕組みを作る

—— 透析医療や画像診断以外にも、事業の多角化を進めていらっしゃるとお聞きしました。

山田 はい。かつてとは異なり、透析医療は今や診療報酬も引き下げられ、新規開業では患者を80人集めない採算が合わないほどです。ただ川原は昔から透析医療を軸に据えながら、高齢者医療や最先端医療など事業の多角化を進めていたから、うちでは透析の収益が落ちても他で補える仕組みになっているのです。

そのほかに特徴的なのが、インバウンド医療です。国際医療事業部という部署を設けて、英語、中国語、インドネシア語など6カ



2年連続で受賞しているヘルスケアアジアアワードの授賞式。2025年は山田理事長がマレーシア・クアラルンプールでの式典に出席した



偕行会グループでは外国人の診察以外にも医療の海外展開や外国人人材の採用など、様々な形で国際化を進める。山田理事長は「人口減少の中で生き残るために国際化は欠かせない一つの要素」と語る

国語に対応し、在日の方や観光客など年間約4000人の外国人を診察しています。シンガポールの出版社が主催する「ヘルスケアアジアアワード」では2年連続で日本における年間最優秀メディカルツーリズム病院部門賞に選ばれ、海外戦略にはかなり役に立っています。

医療機関も、豊かな財政基盤なしには発展もなくいい医療も生まれない。だからこそ、強気で変革を続ける

—— 今後の展望をお聞かせいただけますか。

山田 組織面では「偕行会資本主義化計画」と名付けた人事改革を進めていきたいと思っています。働き方に応じて給与が変動する仕組みです。医療界では「お金の話をするな」という空気が今もあるのですが、私はやはり豊かな財政基盤なしには次への投資もできず、働く人が生きがいを持ってなければいい医療も生ま

れないと思っています。様々な障壁はありますが、2年前に外国人診療へのインセンティブ制度を導入し、順次、他の部門にも広げていく予定です。全病院の7割が赤字という時代です。のほほんと今まで通りやっているだけでは生き残れない。日本社会が沈んでも偕行会は生き残る。そのくらいの気持ちで変革を進めていかなければと思っています。

—— 最後に、理事長の「TOPの決断」を教えてください。

山田 常勤医師の解雇は大きな決断でした。チームでいい医療を提供するには、ハラスメント行為を含む和を乱す行為は見逃せません。高い売り上げを上げる医師であっても、中期的に見れば職員を守ることの方がグループにとって重要だと考え、断行しました。また、川原の人柄にふれて、ここで働くと決めた選択は振り返ればとても大きかった。資本主義化計画も、反対があっても必ずやると言っているのは一つの決断と言えますね。反対にあっても、信念を持って理解を得る努力をする。そうすれば、正しかったと後から分かってもらえると思っています。

—— 夢や目標があるのはすごくいいことですね。これからの「ご発展を楽しみにしています」。

山田 ありがとうございます。

PROFILE

- 創業 1979年(昭和54)2月
- 創立 1982年(昭和57)2月
- 代表 川原弘久
- 従業員数 2397名(グループ計、2026年3月現在)
- 事業内容 病院・クリニック・介護施設等の運営
- 所在地 〒454-0933
名古屋市中区法華1-161(偕行会本部)
TEL 052-363-7211
FAX 052-363-7237
URL <https://www.kaikou.or.jp/>
- 取引店 りそな銀行名古屋支店

interview後記

名古屋出身でありながら、大変失礼ですが、この機会まで偕行会さまの歴史やご実績を十分存じ上げておりませんでした。川原会長が透析医療のために尽力され、その志に感銘を受けた山田理事長が自身の歩む道を見直し、会長の思いを引き継ぎさらなる改革を進めていく信念の強さが素晴らしく、感動しました。(甲賀)